旧岩崎邸庭園

きゅういわさきていていえん

開園　平成 13 年（2001）10 月 1 日　　所在地　台東区池之端 1-3-45
開園面積　庭園 8,718.52 ㎡　　開放公園 2,167.36 ㎡（平成 27 年 7 月 1 日現在）







旧岩崎邸庭園は、明治 29 年（1896）に岩崎弥太郎の長男で三菱第 3 代社長の久弥の本邸として建てられました。往時は約 1 万 5,000 坪の敷地に、20 棟もの建物が並んでいましたが、現在残っているのは洋館･撞球室（ビリヤード場）･和館大広間の 3 棟です。木造 2 階建･地下室付きの洋館は、鹿鳴館の建築家として有名な英国人ジョサイア・コンドルの設計で近代日本住宅を代表する西洋木造建築です。館内の随所に見事なジャコビアン様式の装飾が施されていて、同時期に多く建てられた西洋建築にはない繊細なデザインが、往事のままの雰囲気を漂わせています。

別棟として建つ撞球室は、当時の日本では非常に珍しいスイスの山小屋風の木造建築で、洋館から地下道でつながっています。洋館と結合された和館は書院造りを基調とし、床の間や襖には、明治を代表する日本画家・橋本雅邦が下絵を描いたと伝えられる障壁画などが残っています。現存する大広間を中心に巧緻を極めた当時の純和風建築をかいま見ることができます。

大名庭園を一部踏襲する広大な庭は、建築様式と同時に和洋併置式とされ、「芝庭」をもつ近代庭園の初期の形を残しています。

戦後間もない昭和 20 年（1945）、GHQ に接収されますが、昭和 28 年（1953）に国有財産となり、返還後は最高裁判所司法研修所として使用（～ 1970 年）されました。昭和 36 年（1961）に洋館と撞球室が重要文化財に指定。昭和 44 年（1969）に和館大広間は洋館東脇にある袖塀とともに、平成 11 年（1999）に煉瓦塀を含めた敷地全体と実測図がそれぞれ重要文化財に指定されました。

画像及び文章素材提供：公益財団法人東京都公園協会